

第3回埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和2年4月8日（水）18：00～19：30

2. 会場：知事公館大会議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授

坂木 晴世 国立病院機構西埼玉中央病院専門看護師

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

高田 直芳 教育長

堀光 敦史 企画財政部長

山野 均 県民生活部長

森尾 博之 危機管理防災部長

関本 建二 保健医療部長

本多 麻夫 保健医療部 参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 現状の分析・評価

- 院内での感染が確認された場合は初期対応が重要。
- 感染防止対策について、マスクの有無だけに固執するのではなく手指衛生をしっかりと行うことが大事だと指導するべき。
- しっかりと感染防止対策がとられていれば、感染していない人たちにも安心感を与えることができる。
- 陽性患者の増加状況が東京の半月ほど前の状況と非常に似ている。ここで何とか抑えていかないといけない。
- 埼玉県は東京都から放射状に公共交通機関が通っており、陽性者も沿線に広がっているため、通勤と密接な関係があるのではないか。
- 高齢者施設での感染が疑われる方の搬送、検体採取について課題がある。保健所が出向いての対応には限界があるため、民間の力を活用するべき。
- 家庭内、高齢者施設内での感染を防ぐため、保健師等が指導を行うようにするべき。
- 入院患者のうち、症状が軽快し陰性の確認だけがされていない患者が退院できないことから、病床を圧迫している状況がある。在宅や宿泊施設でフォローするなど入院病床を確保できるよう進めて欲しい。
- 軽症者が重症化した際に調整を行い、別の病院に移送するスキームが必要ではないか。
- 指定医療機関でない病院においても陽性患者を診るためには受け入れ施設基準というものを明確にしていくべきではないか。